ツバサ短編

琥珀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ツバサ短編

【Ｎコード】
Ｎ４３６５Ｏ

【作者名】
琥珀

【あらすじ】
ツバサの短編集です。
時間軸はバラバラです。
感想、意見お待ちしています。

けんか？

「小狼君のばか！」

サクラがありえない言葉を口にする
「そんな事ありません！」
「そんな事あるもん！」
「ありません！」
小狼もサクラに怒鳴るなど、ありえない
「ばかばかばかー！」
「ばかって言う方がばかです！」

ありえない…
本当にありえない
あのサクラと小狼が喧嘩をしている…！
いつもは仲の良いあの二人が…！

「ばかじゃないもん！」
「ならおれも違います！」
「小狼君はばかだもん！！」
「ならサクラ姫もばかです！！」

むう～～～～！　となる二人

「ふ、二人ともどうしたの？」
ファイが聞く
ファイも、モコナも、もちろん黒鋼だって、この2人が喧嘩するなんて思ってもみなかった

だからそれはもうめちゃくちゃ驚いた
しかし

「「なんでもありません！！」」

二人して言ってきた
「は、はい」
そこにはいつもの小狼とサクラはいなかったのだった…

……

「何があったんだと思う？」
「モコナ…全然分かんない！」
「…小僧が何かした…」
「…ってのはあんまり想像つかないし…」
「「「……」」」

……

「サクラちゃん」
ファイが優しく話しかけても
「…何ですか？」
「…イエ」

「おい。小僧」
「しゃーおらんっ！」
黒鋼とモコナが話かけても
「何ですか？二人とも」
「「……（何も言えない）」」

三人とも困ってしまった
「んーどうしよっかぁ」
「「「……」」」
三人は頭を高スピード（？）で回転させ、ようやく仲直りの方法を見つけた！
だが、二人の所に行くと…

「小狼君。ファイさん達、どこにいったのかな？」
「おれも昼ぐらいからずっと見てないんです。どうしたんでしょうか？」
「そうだ！ファイさん達が来るまでにご飯作ってようよ！」
「はい！サクラ姫」

「「「……」」」
三人が二人の所に行くと、２人はケロッとしていて、元の仲良しになっていた

「二人とも…」
「あ、皆さん！」
「どこにいっていたんですか？」
小狼とサクラはぱたぱたと駆け寄ってくる

「…喧嘩…してたよね？」
「「喧嘩？」」
「うん」
二人は顔を見合わせ「ああ！」と言った

「あれは喧嘩っていうもんじゃありませんよ」

「ただこんにゃくについてちょっともめちゃって…」
「「「こんにゃく！？」」」
三人は唖然とした

「実はわたしも小狼君も『こんにゃく』が大の苦手で…」
サクラは「うぅ…」となりながら言う
「で、おれの意見は『絶対に出たら食べる！』というもので」
「わたしの意見が『嫌いなものは無理して食べるのは嫌！』っていうものだったんです」
「それからだんだんと…ですね」
「結局『無理して食べなくて良いけど、食べる努力をしよう！』で収まったんですよ！」
にこにこと話す二人を見て三人の意見は一致した

子供って分かんない！

お昼ね

「わあーっ！モコナ、ここととっても気に入ったの！」
「綺麗な場所だねぇ」
「本当！私もすっごく好きです！」

小狼達が来た次の世界は『リーフィー国』
緑がたくさんあって、お花畑や森、その他にもとても綺麗で澄んだ湖があったりと、とても自然の多い国
動物もたくさんいて、しかやリス、うさぎ、小鳥などの様々な動物達がいる

「小狼君。動物好きなの？」
「はい。かわいいですよね＾＾」
小狼は動物達の頭をなでたりしていた
動物も小狼になついている
「桜都国でも、すぐに護刃んとこのワンちゃんと仲良くなってたもんね！小狼！」
モコナが小狼の肩に乗って言う
「白饅頭もてなずけたしな」
その様子を見て黒鋼が言った
「黒鋼ひどーいっ！」
モコナは黒鋼に頭突きをした
「黒ワンも小狼君になついたもんねー♪」
「んだとごらあ！！！」
「「きゃ――！」」
「「あ、あの…（汗）」」
ファイ、黒鋼、モコナはいつもの様に追いかけっこをはじめてしまった

小狼は苦笑してその光景を見ている
サクラなんかは「仲いいですねー」と言っている

……

「モコナ疲れたー」
モコナはひとしきり追いかけっこをした後、木陰にいた小狼とサクラのところに来た
「はしゃいでたもんな。モコナ」
「モコちゃん楽しそうだったものね」
小狼とサクラはにこっと笑う
「うん！モコナ楽しかったー！」
「見てるから眠って良いよ。」
「ありがとう！小狼！」
モコナは小狼の腕の中で眠り始めた
それを見て
「「（手なずけてるだろ／ねぇ）」」
と黒〇とファ〇は思ったとか

「モコちゃん。よく眠ってるね」
サクラは小狼の腕の中にいるモコナを除きこみながら言った
「はい」
小狼も優しい笑みを浮かべた

「小狼君。サクラちゃん。オレらちょっとそこら辺見てくるから～」
「あ、はい」
「黒ワーン、行くよ～」
「俺は犬じゃねえ！！」
「あっあっ！（焦）」
「あ、あの…！モコナが起きる…（焦）」

ギャーギャー良いながら2人は行った

――――――――――――

こてんっ
小狼は肩に重さを感じ、隣をちらっ見てみると、サクラが寝ていた

「ひ、姫…？」
「すぅ…すぅ…」
小狼は頬を紅く染めたが、サクラの気持ちよさそうな寝顔を見て、
優しく微笑んだ
すると、動物達も集まってきて、くるまりはじめる

「みんなも眠ってるんだな…。確かに、気持ち良い天気だなあ…」
小狼は青く、澄んだ空を見上げた

――――――――――――

「あれ？」
ファイ達が戻ってくると、小狼は人差し指を口の前にあてた
「しー…」のポーズだ

「サクラちゃんも寝ちゃったんだねぇ」
「お前はベッドか？」
「でも、みんな気持ちよさそうですから」
小狼達は小声でしゃべる

「ん…」
サクラの瞳がだんだんと見えてきた
「あ、姫。起こしてしまいましたか？」

「え…？…――――――――――――！！！！」
サクラは自分が小狼によっかかって眠っていたことに気づき、真っ赤になった
「ごっごめんなさい！！あの…！あの…！／／／／／」
「？　よく眠れましたか？」
「え？あ、うん！」
小狼はにこりと笑った
――――――――――――――――――――そこへ

「らぶらぶだあ――――！」
「「わあああ！！！／／／／／」」
「ももももももっ！！」
「モコナ！！いいいいつの間に――――！」
「うふふ～♪」

小狼とサクラはしばらく真っ赤だったとさ☆

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4365o/

ツバサ短編

2010年12月30日22時26分発行